

..... 編集後記

◆9月ですが、まだ残暑厳しい昨今です。防災の心構えを新たに、災害に備えましょう。今月号は、一般記事による構成となっております。じっくりと記事を読みながら、初秋の夜長をお過ごし下さい。

◆本誌の記事を単なる読み物としてではなく、教科書的に利用しているとの声を良く耳にします。大学等でもフィールドに出て地質調査を伝授する環境が少なくなった現在、地質調査法の教育は重要です。徳橋氏は、前回に引き続きテフラを鍵層として房総半島の堆積相の解析を行った例を、具体的且つ詳細に伝えています。フィールド調査に立ち戻って地質学を学ぶ上で、良い教科書となることでしょう。

◆最近の地球科学情報の電子化と高性能化したパソコンとを上手に利用した統合的地熱資源評価の研究例を、これまで本誌に幾つか紹介してきた茂野氏は、今回は米国地質調査所公開の高機能高温熱水系シミュレータの紹介をして下さいました。マグマが貫入して熱変成帯や熱水系ができる様子をシミュレーションした例や、蒸気相の卓越した高温熱水系の発達状況をシミュレーションした例などが紹介されていますので、じっくりとお読み下さい。

◆地熱地帯では間欠泉が起る場合があります。間欠泉といえば、熱海の大湯間欠泉で湯気が出る程度のもを見てその不思議さに感動した思い出がありますが、これは過去に既に止まってしまったものを人工的に再現しているとのこと。ニュージーランドでは以前世界一高い457mの高さまで吹き上がる間欠泉があったそうで、現在でも数10mにも達すること、日本とは規模が違いますね。このニュージーランド地熱地帯の間欠泉において、高感度重力計を用

いて連続測定した結果を、杉原・西両氏は紹介して下さいました。間欠泉における重力変化は如何だったのでしょうか、本文をお読み下さい。

◆地質調査総合センターは、高校生などが研究現場で実験・実習を行う体験合宿プログラムであるサイエンスキャンプに、地質調査所時代の1997年から協力しています。今回は、春に仙台郊外の地質巡検・地質断面図作成実習等が実施されました。その模様を高橋氏ほかに報告していただきました。毎回新鮮ですが、4回目ともなると今回のサプライズは何でしょう、答えは記事をお読み下さい。

◆地質調査は平坦な場所で行われるとは限りません。沢や尾根などの滑落しやすい場所での調査も結構あるものです。そうした危険な箇所での調査の安全対策を学んでおくことは、危険を伴う野外調査においては必須です。長森氏は、前回の講習に引き続き、雪上での安全対策について紹介して下さいました。

◆9月の砂浜は暑い夏の思い出、賑わいと寂しさの複雑な気分を醸し出してくれることでしょう。須藤氏による「砂と砂浜の地域誌」は、前月号に引き続き島根県西部から更に西に山口県境に至る地域で、いろいろな顔つきをした砂が紹介されています。

◆地質図の新しい利用法を紹介する斎藤氏の第2弾は、屋久島のTシャツです。これができるまでの苦労と工夫話をお読み下さい。最後は書評で、環境問題を扱った本を玉生氏が、また、地層の解説本をフレンドリーに七山氏が紹介して下さいました。

◆先月お知らせ致しましたように、地質情報展が9月18-19日に富山で開催されます。お近くの皆様、是非ご都合をあわせてご来場下さい。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 涉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース 第673号 2010年 9月号
定価¥785(本体価格¥748) 千実費

2010年9月1日 発行

編集 産業技術総合研究所

発行人 株式会社 実業公報社

代表者 林 光生

発行所 株式会社 実業公報社

東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073

Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952

http://www.jitsugyo-koho.co.jp

E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp

振替口座 00110-6-32466

麹町局私書箱第21号

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2010 Geological Survey of Japan